巻　頭　言

「令和の米騒動」に思う

公益財団法人日本植物調節剤研究協会　理事
北陸支部長
土田　徹

私は新潟の自然に囲まれた田舎で育ちました。小学校低学年の頃には田植えや稲刈りのために学校が休みになるほど，集落全体が稲作と深く結びついていました。実家は１町５反余りの水田で稲作を営むとともに，米屋でもありました。そんな環境で育った私は，幼い頃から米づくりの大変さと喜びを身近に感じてきました。

2024年夏にスーパーの棚から米がなくなり価格が高騰する，いわゆる「令和の米騒動」と呼ばれる事態が起こりました。そして，今も米の価格は高い状態が続いています。なぜ米の価格が高いのでしょうか。

これには需要と供給の両方に要因があると言われています。需要側の要因として，①訪日客の増加による需要の拡大，②南海トラフ地震臨時情報後の購入量の増加など，供給側の要因として，①2023年の猛暑の影響によって米に高温障害が発生し，乳白粒や胴割粒が増加，精米歩留まりの低下による流通量の減少，②農業者の高齢化や担い手不足，③生産調整による飼料米や加工米，麦・大豆などへの転換の奨励などが挙げられています。ギリギリの需給バランスを保とうとしたこともあると思います。

最近，米の価格に関するアンケート調査の結果が新聞報道されていました。適正と考える米の５キロ当たり店頭価格は，消費者では２千円台，生産者ら農業関係者では３千円台が最多となっていました。価格だけに注目すると，消費者は「高い」と感じ，生産者は「もっと収入が必要だ」と訴えます。生産者は一定水準の価格にならないと，米の生産を続けることができません。しかし，価格が高くなることで米消費量の減少が加速してしまうことも心配です。

ところで，今の米の値段は高いのでしょうか。確かに昨年と比べると２倍程度ですから高くなっています。しかし，一人一日当たりどれくらいか考えてみましょう。年間の一人当たり消費量は約55キロ，銘柄米５キロ当たり4,500円とすると，136円になります。アンパン１個の値段がコンビニなら130～160円ですから，アンパン１個とその人が１日に食べる米の値段が同じくらいなのです。消費者と生産者がお互いの立場を理解し合い，双方が納得できる価格を模索することが必要なのではないでしょうか。

米は食文化を魅力的なものにしています。私たち日本人の食卓に欠かせない主食といえば，やはり「米」です。毎日の食事で食べるご飯は，私たちの体を作り，健康を支えてくれています。米は日本の食生活の中心にあり，栄養バランスの良い食材です。主食として米を食べることで，脂質や糖質の摂取を適切にコントロールし，健康を維持する助けにもなります。日本の米は，世界に誇る安全性と品質を持っています。日本が世界一の長寿国となった背景には，こうした安全で安心な農作物が毎日の食卓にあったからとも言えるでしょう。しかし，現代の米離れは深刻です。手軽なパンやパスタ，外食や加工食品の普及により，米を食べる機会が減っています。だから今こそ，改めて日本の米と食文化の素晴らしさを再認識する必要があります。

また，米を生産する水田は，環境に対する重要な役割を担っています。たとえば，水を貯めて大量の雨が降っても，一気に水が川に流れ込むことなく，洪水の危険を減らしてくれる「防災機能」，雨水やかんがい水を長時間かけて土に浸透させ，きれいな地下水にする「地下水涵養機能」，カエルやトンボなどいろいろな生きものの住みかを提供する「生態系維持機能」などです。これらは私たちの暮らしや自然環境を守るうえで非常に大切です。米は単なる食材ではなく，日本の文化や健康，そして豊かな自然環境を支えている存在なのです。これから先も米づくりを続けていくためには，単に価格を上げ下げするだけでは足りません。多くの生産者は収入が安定しない不安を抱えています。収入が不安定だと生活設計も立てにくくなり，後継者が農業に魅力を感じにくく，将来に希望を持ちにくくなっています。

まずは，安定した収入を確保できる仕組みの整備が必要です。たとえ災害にあって収穫量が大きく減っても，最低限の収入が保証される所得保障制度や収入保険制度の整備が重要です。収入の不安が減れば，安心して米づくりに専念できます。また，消費者としてできることもあります。それは，国産米を選んで食べることです。学校給食や外食産業で国産米をもっと使うようにすれば，需要が高まり生産者を支える大きな力になります。そして，その価値をしっかりと理解し，日本の食文化の魅力を改めて発信する，周りの人たちに伝えていくことも重要です。

このように考えてみると，米づくりは生産者だけの問題ではなく，消費者も深く関わっていることがわかります。未来の日本の食卓に，美味しいご飯が当たり前に並び続けてほしいものです。そのためには，生産者が安心して米づくりに打ち込める農業政策や価格の在り方について関心が高まり，議論が進むことが期待されます。そして私たち一人ひとりが，お米の価値を理解し，国産米を選ぶことで，その未来を支えていきましょう。